

## 総合的な学習の時間学習指導案

三次市立三次中学校

T1 高田 健登

T2 井上 健太郎

T3 藤山 智弘

T4 都 咲良

- 1 日 時 令和7年11月18日（火）5校時
- 2 学 年 第3学年A組（男子22名，女子19名，計41名）  
第3学年めぐみ学級（男子2名）
- 3 場 所 3年A組教室
- 4 単元名 グッドタウンみよし Season3 ～企画を実行しよう～
- 5 単元について

### （1）単元観

本校の位置する三次町は、古くから交通の要衝として栄えた歴史を持つ町であり、三次盆地に位置し、西城川、馬洗川、江の川の三つの川が合流する地点に位置することから、水運と陸運の要所として発展してきた。明治・大正・昭和期も県北随一の商都として栄え、その面影は数々の神社仏閣、江戸期の町割りや町屋の中に残っている。また三次町は、江戸時代中期に描かれた『稲生物怪録』の舞台でもある。『稲生物怪録』とは稲生平太郎と人間をおどかしにやってきた魔王たちとの不思議な体験を綴った物語であり、物語には多くの怪しげな妖怪が現れるだけではなく、現在も存在する場所や、主人公の平太郎をはじめ当時の三次に実在した人物が登場しており、この作品が誕生してから絵本や絵巻など、さまざまな形態で日本各地に伝えられてきた。しかしながら、三次町は少子高齢化・過疎化の影響を受けており、稲生物怪録の舞台であり、歴史的な街並みが保存されているものの、それらは老朽化などから少しずつ姿を消し、空き家なども目立つようになった。また、少子高齢化による人口減少、それに伴う地域経済の衰退も顕著である。

生徒たちはこれまでに三次町が抱える課題についてコミュニティ・スクール（以下CS）や地域の方々から学び、改善案について考えてきた。本単元は、地域の方と協働して地域活性化のための企画を計画・実行していくことを通して、一人一人の行動が社会を支えていることを理解し、企画を実行していく際に自分の特性をどのように活かして貢献していけばよいかを考えるとともに、自分はどのように社会と関わって生きていくかを考えて生活や行動に生かすことができるようにすることを目標としている。地域・社会と連動したカリキュラムを設定し、CSを活かして地域人材を活用する場面を設定することで、地域社会の一員としての自覚や社会との関わりについて認識できることに加え、みよし学園が育成を目指す資質・能力である「主体性」・「協調性」・「コミュニケーション能力」を高めていくことができると考えられる。

## (2) 生徒観

本学年の生徒に5月に実施した総合質問紙調査の結果は以下のとおりである。

【肯定的回答の割合（％）】

	本学年	全国	全国との差
将来、あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事に就きたいという夢や目標がありますか。	91.9%	75.4%	+16.5p
あなたは、ものごとを行う時、次に何をすべきかを自分なりに判断して行動していますか。	89.2%	84.6%	+4.6p
あなたは物事を最後まであきらめずにやりぬく方ですか。	67.6%	72.7%	-7.1p
自分にはいいところがありますか。	64.9%	74.1%	-9.2p
クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか。	62.2%	65.0%	-2.8p
クラスの多くの人や仲の良い友達と意見が違っても、自分が正しいと思ったことは、それを主張することができますか。	51.4%	65.7%	-14.3p

	本学年	全国	全国との差
主体性	77.1%	73.6%	+3.5p
協調性	45.7%	57.5%	-11.8p
コミュニケーション能力	50.3%	55.9%	-5.6p

「将来、あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事に就きたいという夢や目標がありますか。」という項目において全国平均+16.5p、「あなたは、ものごとを行う時、次に何をすべきかを自分なりに判断して行動していますか。」という項目に対しては全国平均+4.6pと、夢や志を持ち、日々の生活の中で、様々な課題に対して、自ら目標を設定し、主体的に行動していくことができる生徒の割合は大きく感じられるが、「あなたは物事を最後まであきらめずにやりぬく方ですか。」という項目に関しては全国平均-7.1pと物事に対して粘り強く取り組む力に課題がある。その背景として、協調性やコミュニケーション能力の不足が考えられる。「自分にはいいところがありますか」という項目では全国平均-9.2pと、自己認識力や自己肯定感が低く、自分に自信が持てないことから自分の意見や考えを積極的に発言できず、解決が難しい課題に対して、他者と協働して取り組むことができない生徒の割合が大きいことが伺える。一人では解決が難しい課題に対して、自己の特性を生かしながら解決していくための情報収集や解決方法を自ら考え、他者と協働して実行していく経験を積ま

せることで、自己認識力・自己肯定感が高まり、協調性やコミュニケーション能力の育成につながると考える。

### (3) 指導観

指導に当たっては、みよし学園の育成したい3つの資質・能力の向上を目指して、以下の点を工夫し、探究的な学びを目指していく。

小単元⑦「みよしを考えるSeason3」では、課題の設定の際に、地域活性化のための取組を、CSを生かした地域人材との関わりの中から見出し、地域と協働して企画を計画・実施していけるよう、ゲストティーチャーとの交流の場や地域に直接出向いてインタビューを行っていく場面を設定する。その際に「もののけ秋祭り」「三次ふれあいフェスタ」の2つの地域行事への参画・運営を目指して企画案を考えさせていくことで、地域の人々と協働して企画の実施に向けて行動していくことができる基盤をつくる。地域の中で必要とされ、期待される中学生の存在を生徒たち自身に実感させることで、自己存在感や自己肯定感を高め、全員が自分事として活動に取り組むことができるようにしたい。情報収集の場では少人数グループ(10～12人)ごとに目的や目標の達成に向けて、必要となる情報を収集させる。少人数グループを形成することで一人一人に個別の役割を持たせることで責任感が生まれ、目標達成に向けて主体性をもって活動することを期待する。また、自分の意見に自信が持てない生徒が多い中、少人数グループでは一人一人の意見がより尊重され、考えや発言がグループ全体に反映されやすいことから、各自の立場から企画内容や実施方法について意見を出し合わせることで協調性やコミュニケーション能力の育成を目指したい。その際、生徒自ら企画を成功させるためにはどのような人の助けや助言が必要なのか計画を立てさせ、CSを通して連携を行わせることで、探究的な学びの場を設定していく。整理・分析の場面では、地域活性化に取り組んだ他校との実践交流を通して、他校からの取組の成果と課題や助言をもとに企画実施に向けた計画をブラッシュアップさせ、全員が納得できる企画の実現に向けて合意形成を図らせたい。

小単元⑧「グッドタウンみよし」では、企画を実施し、目標が達成されたかどうか分析を行っていく。整理・分析の場面では、アンケート等の結果や、企画を実行した施設の責任者の方や伴走してくれた方の感想等を分析し、目的が達成されたかを検証することで、一人一人の行動が社会を支えていることに気付かせたい。また、地域の方々からの声や、自分の特性をどのように活かして取組を行うことができたか評価させることで、自己認識力や自己肯定感を高めることができる場面を設定する。まとめ・表現の場面では、これまでお世話になった方や後輩に対して、企画を実行した成果や改善点を踏まえた報告会を設定することで、自己の取組を客観的に分析させ、資質・能力の高まりを実感させたい。

小単元⑨「描こう！自分のキャリアプラン」では、自分がどのように社会と関わっていきたいか、また自分がどのようなことに興味・関心を持っているか自己内対話を通して深めさせ、立志式でキャリアプランを表現させる。そのために、探究で得た経験を振り返らせることで、社会との関わり方には仕事だけではなく様々な方法があることを理解させる。また、自分の将来について、何に重点を置きたいか、どのように社会と関わっていきたいかを踏まえて考えさせることで、キャリアプランが将来の夢や目標への道筋だけに留まるのではなく、社会の一員として自分の特性を生かしながら、どのように社会

とつながりを持って、他者と協働しながら生きていくのかという視点を持って立志式においてキャリアプランを表現させたい。

## 6 単元の目標

地域の方と協働して地域活性化のための企画を計画・実行していくことを通して、一人一人の行動が社会を支えていることを理解し、企画を実行していく際に自分の特性をどのように活かして貢献していけばよいかを考えるとともに、自分はどのように社会と関わって生きていくかを考えて生活や行動に生かすことができるようにする。

## 7 単元計画（別紙）

## 8 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 地域活性化のために様々な活動や取組を行う人々の存在や、その人たちの思いを理解している。また、社会との関わり方には仕事だけではなく様々な方法があることを理解している。</p> <p>② 企画を実行するために、目的を明確にして情報を収集し、必要な情報を取捨選択している。また、自分の将来について、何に重点を置きたいか、どのように社会と関わっていきたいかをふまえて情報を収集し、必要な情報を取捨選択している。</p> <p>③ 地域に住む一員として地域貢献の取組を立案・運営することが、社会をより良くすることに繋がっていることを理解している。</p>	<p>① 企画に込めた思いを実現するために必要な情報は何かを考え、企画を実行・評価するための見通しを持って計画を立てている。また、キャリアプランを立てるために必要な情報は何かを考え、見通しを持って計画を立てている。</p> <p>② 企画を実現するために、観点を明確にしながら、適切な手段を選択して情報を収集したり、フィールドワークを実施したりしている。また、自分が興味のある職業や社会との関わり方について求められる能力について、適切な手段を選択して情報を収集している。</p> <p>③ 収集した情報を分類・比較し、目標と照らし合わせながら、活動の内容や成果、課題について整理・分析している。</p>	<p>① 企画に込めた思いを実現するための方法は1つではないことを意識して、自分と相手の意見を踏まえて、より良い解決方法がないかを考えようとしている。また、社会との関わり方には多様な方法があることを理解し、自分の興味や特性をふまえてキャリアプランを立てようとしている。</p> <p><b>【コミュニケーション能力】</b></p> <p>② 課題解決に向けて自ら目標を設定し、よりよい取組方法を模索しながら行動しようとしている。<b>【主体性】</b></p> <p>③ 一人では解決が難しい課題に対して、自ら積極的に他者に関わり、他者の意見や考え方を受け入れながら取り組もうとしている。<b>【協調性】</b></p> <p>④ 自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにでき</p>

	④ これまでの学びを生かして地域貢献をするために、地域の一員として自分たちにできることを考えるとともに、自身の将来への生かし方について考え、表現している。	ることを考えて積極的に関わろうとしている。【主体性】
--	---	----------------------------

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

成功イメージと照らし合わせながら自分たちの振り返りとアンケート結果を分析し、自分たちは地域の活性化を行うことができたのかを分析し、次年度に地域活性化に取り組む後輩たちに向けたメッセージを考えることができる。

### (2) 本時の評価規準

振り返りとアンケート結果を分析し、成功イメージと照らし合わせながら、活動の内容や成果、課題について整理・分析し、よりよい改善案を提案しようとしている。[主体的に学習に取り組む態度②]

### (3つの資質・能力について)

企画に込めた想いを実現するための方法は1つではないことを意識して、自分と相手の意見をふまえて、より良い解決方法がないかを考えようとしている。[コミュニケーション能力]

### 【ルーブリック】

A	成功イメージ（目標）と照らし合わせながら、アンケート結果を分析することで成果や課題を認識し、次年度に活動を行う後輩達へ、課題や成果を生かしたメッセージを考えることができる。
B	成功イメージ（目標）と照らし合わせながら、アンケート結果を分析することで成果や課題を認識し、次年度に活動を行う後輩達へのメッセージを考えることができる。
C	アンケート結果を確認することはできるが、課題を見出したり、メッセージを考えたりすることができていない。

B評価に至らない生徒への支援方法

- ・アンケートを読み取る視点を再度示し、成功イメージと比較させる。
- ・肯定的な回答と否定的な回答を読み取らせることで、成果と課題に気付かせる。

### (3) 準備物

ワークシート、アンケート結果、振り返り用紙

(4) 本時の展開

	学習活動	○指導上の手立て ●留意点※他教科とのつながり	評価規準 (評価方法)
導入	1 本時の流れを確認する。	○企画の成功イメージを共有し、本時の流れを示す。	
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><b>成功イメージ</b> 地域を活性化するために、広報活動を通して、三次市内に住む方々だけではなく、市外からも多くの方々にお祭りに来ていただき、お祭りに楽しんで参加している姿を見たい。また、企画・グッズ・食・広報の各グループの活動を通して三次の伝統や文化、魅力を知ってもらい、三次を訪れる人を増やしたい。</p> </div>		
展開	2 本時の目標を確認する。	○本時の目標と、本時でつけたい資質・能力を確認させる。	
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p><b>本時の学習内容・目標</b> 成功イメージ（目標）と照らし合わせながら、アンケート結果を分析することで成果と課題に気づき、後輩達に向けたメッセージを考えよう。</p> <p><b>本時でつけたい資質・能力</b> 根拠と主張を明確にして言葉で伝え合うことを通して、互いの主張の意図や思いを認め、尊重し合うことができる。（コミュニケーション能力）</p> </div>		
	3 来場者アンケートをグループごとに確認し、成果と課題を見出す。	○成功イメージを達成できたかどうかアンケート結果を以下の視点から読み取らせ、グループごとに成果と課題をまとめさせる。 ●成果は認めつつも、これまでの取組が地域活性化に向けて持続可能な取組となりうるものではなく、一過性の取組であったことに気付かせることで、今年度行った取組には成果の他にも課題や改善の余地があることをおさえる。 ※国語科、「観察・分析して論じよう」を並行して学習する。	振り返りとアンケート結果を分析し、成功イメージと照らし合わせながら、活動の内容や成果、課題について整理・分析し、よりよい改善案を提案することができる。 [主学態③]

	<p>4 次年度に地域活性化に向けた活動を行う後輩達に向けたメッセージを考える。</p>	<p>○以下の点を意識させ、次年度に向けた後輩達へのメッセージを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の活動の中で、継続して次年度にも続けてもらいたいことはないか。</li> <li>・見出した課題を解決する活動案や改善案はないか。</li> <li>・活動を行っていくうえで、気を付けるべきことや意識すべきことはないか。</li> <li>●後輩たちにつなげていくことで、今年度の活動が地域活性化に向けた取組への一つの礎になることに気付かせる。</li> </ul>	
<p><b>【予想される生徒の反応例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三次を訪れる人が増えたかどうか分からないため、継続調査をお願いしたい。</li> <li>・お祭りが盛り上がり、たくさんの方が来たため、来年もお祭りに参加してもらいたい。</li> <li>・三次を訪れる人や地域の方が求めていることを把握し、それに合った活動案を考えていく必要がある。</li> <li>・三次市外からの参加者が少なかったため、市外に向けたPRを工夫した方がいい。</li> <li>・事前調査をしっかりと行い、活動の成果を得られたかどうか、比較できるようにしておいた方がいい。</li> <li>・保存できるような成果物をつくり、取り組みが終わった後も三次を訪れる人が増えるような活動を考えた方がいい。</li> </ul>			
終末	<p>5 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動の振り返りをする。</li> </ul>	<p>○本時の活動を振り返らせる。</p>	
	<p><b>【振り返りに表記させたい資質・能力に関する記述】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果と課題をもとに後輩達へのメッセージを考えることができた。</li> <li>・アンケート結果を分析して、具体的な成果や課題を見つけることができた。</li> <li>・成果と課題を生かして、より良い改善案を考えることができた。</li> </ul>		
	<p>6 次時の予定を確認する。</p>	<p>○次回は各グループから出た成果や課題を共有し、3年生全体として成功イメージを達成することができたかどうか検証し、後輩達へのメッセージを共有するとともに、立志式に向けて、これまでの取組を踏まえ、どのように社会と関わっていくのか考えていくことを伝える。</p>	